

# わだち

令和2年8月21日 第18号

## みんないっしょに 力を合わせて

8月17日(月)、9日間の夏休みを終え、学園に子供たちの笑顔が返ってきました。まず、事故なく過ごしてくれたことを大変うれしく思います。

題の「みんな いっしょに 力を合わせて」は、夏休み明け集会で私がみんなに伝えた言葉です。この日、家壁方面に徒歩で帰る子どもたちに付き添った際に、ある女の子が「校長先生の今日のお話を覚えていますよ。」と口に出してくれました。とってもうれしい、ありがたい出来事でした。ありがとう。

この日、多くのマスコミの記者さんがが集まり、短い夏休みを終えた子供たちの様子を県下に報道してくださいました。私は「一緒」という言葉を伝えました。このコロナ禍にあって、大切なことは、もちろん感染を予防することですが、誰でも感染の可能性があるということと感染した方を思いやる寛容で優しい心だと思っています。

「一緒＝一本の糸でみんながつながる」のです。学力を保障することは大前提ですが、子供たちの心を高めるための機会だと考えています。この心でコロナ禍を乗り越えましょう。 村上 拝

## なんサマー、あつか！ ～学園生、自ら考え 判断する熱中症対策～

学園では、毎日、熱中症チェッカーを使って、暑さ指数(WBGT)を測定し、指数をもとに熱中症対策を進めています。

19日(水)までは、養護教諭が測定し、教頭先生が「暑さ指数が31℃になったので、熱中症防止のため、昼休みは、外と体育館での活動はできません」と放送していました。



しかし、水曜日に、ある先生から、「天気予報や温度計、暑さ指数等をもとにして、自分で考えて、水分補給をしたり、帽子をかぶったり、涼しいところで過ごしたり、日傘をさしたりなどの対策ができる力を子供たちに！」という意見が出されました。

そこで、20日(木)からは、生活体育委員長の平田君、保健給食委員長の岩下君を、暑さ対策のメンバーに加え、指数をもとに協議して、昼休みの活動をどうするか決めるようにしました。「外で遊ぶ時間を15分にしましょう。」「帽子は必ずかぶること」など、両委員長の意見は、実に的確なものでした。

9月まで暑い日が続くという予報も出ています。学園は、学園生と先生たちが協働して、感染症対策とともに熱中症対策にも取り組みます！今村 拝

